

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 引野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

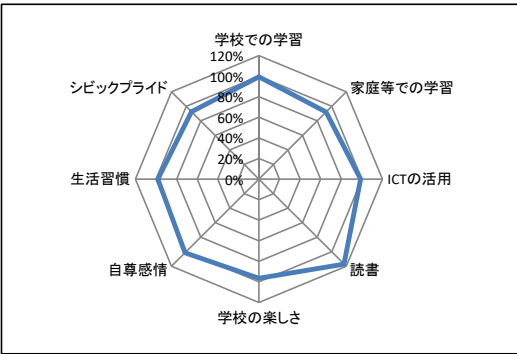
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っている問題が多かった。必要な情報を読み取ったり、工夫して活用したりすることを苦手とする児童が多いことが分かる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回っている問題が多かった。特に「図形」領域は全国平均を大きく上回っており、得意とする児童が多いことが分かる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの問題で全国平均を下回っていた。特に「生命」を柱とする領域は全国平均を大きく下回っており、植物の発育に関する問題が苦手な児童が多いことが分かる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	電気の回路のつくり方について、実際の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「読書は好きですか」「授業時間以外にどれくらい読書をしますか」の問いに対して約80%の児童が肯定的に回答しており、全国平均を大きく上回っていた。 ・「ICTの活用」に関する問いについては、全国平均を若干下回っているが、昨年度と比べると10%以上高くなっていた。今後もいろいろな場面でICTを活用できるように啓発していく。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「人の役に立つ人間になりたい」の問いに対して90%以上の児童が肯定的な回答をしている。 ・「家庭等での学習」「生活習慣」に関する調査項目は、全国平均を下回っていた。今後も、家庭学習の方法や生活習慣を整える大切さを啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科の学習において、「話す・聞く」「書く」「読む」の基礎的な学習を繰り返し行っていく。また、低学年でMIMを定期的に行うことで、読む力の向上を図る。理科では、「生命」を柱とする領域が苦手な児童が多いので、3年生から系統性を意識した授業を行い、しっかりと定着させていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

自主的な家庭学習を進めていくため「自主学習ノート」の活用を推進している。今年度は自主学習ノートを掲示し、保護者への啓発にも力を入れた。引き続き保護者と連携し進めていく。また、保健や家庭科の授業で、生活習慣や食生活の大切さについて学びを深めた。